

2012サポーターミーティング議事録

■開催日時

2012年3月3日 18:00～19:30

■会場

静岡市東部勤労者福祉センター 清水テルサ

■清水エスパルス出席者

竹内康人代表取締役社長、森田芳弘営業本部長、深沢陽介営業企画部長、森谷理運営チーム部長、原靖強化部長、林政彦ホームタウン推進室長、杉田壮広報室長、村越剛営業企画部課長、森宇宙運営担当

■サポーター参加者

サポーター有志の会顧問（相談役）納谷聖司氏

サポーター有志の会会長 大滝正勝氏

サポーター61名

納谷氏：

ミーティングに入る前に一言挨拶させていただきます。

まず、本年は皆さんご承知のようにJリーグ開幕から20年という節目の年になるわけですが、この20年の間、経済状況も良かったり悪かったりいろいろなことがありました。そのような中、安定した運営と経営に努力されました運営会社の皆さまに厚く御礼申し上げたいと思います。それと同時に、雨の日も嵐の日も、また昼も夜も常に熱い情熱で応援してくださった、サポーターの皆さま、本当にご苦労さまでした。

皆さんの熱い思いがこれからもクラブや選手に、そして一般のサッカーファンの皆さんに届くように、今日のこのミーティングは大切な新しい一歩だと思います。我々の思いが伝わって、良い環境、良い関係で、これからも清水エスパルスを応援していければこんなに素晴らしいことはないと思っています。我々サポーターも、地元のチームということを考えて、選手たちに対して40%くらいの叱咤と60%くらいの激励がちょうどいいかなとも思いますが、色々な考えがあると思います。そんなことで、今日お集まりの方々色々な話し合いの中で、素晴らしいエスパルスを構築できるように頑張っていたいただきたいと思います。宜しくお願いします。

竹内：

土曜日の夜でお忙しい中、大勢の方にお集まりいただきありがとうございます。今日は1時間半という限られた時間ですが、納谷さんからお話があった通り、ここに来ていただいたみなさまは20年間応援くださったみなさまだということで、会社を代表して厚く御礼申し上げます。

1月16日にチームはすでに始動しており、ウェブサイト等で今年のスローガンや目標を発信しております。今日は反対に、みなさまの方からいろいろなご意見をいただけるという機会にしたいと思っています。サポーター代表の方から、このミーティングの開催の件をお聞きし、我々も一方的に発信するだけでなく、みなさまの意見を聞ける場ということで非常に貴重な機会であると認識しておりますので、是非活発なご意見をお願いいたします。

サポーター代表 大滝正勝様：

今日はお忙しい中、サポーターミーティングにお集まりいただき誠にありがとうございます。幅広く集めたサポーターミーティングは2004年に1回行いましたが、それ以来となります。この会を開いてくださったエスパルスの皆さま、ありがとうございました。

今回は団体や個人の関係なく、エスパルスが好きな人が集まりました。うまくいかないこともあるかもしれませんが、みんなで話し合っって良いミーティングにしたいと思います。初めて参加された方も恥ずかしくならず、是非ご意見ください。

《エスパルス各担当より今シーズンのビジョンや取り組み等のご報告》

営業担当 深沢：

営業の業務としましては、スポンサー様の営業活動、チケット関連、グッズ販売を中心にこなっております。開幕に向け、鈴与グループ様、グリコ様、JAL様、アウトソーシング様始め、今まで支援頂いている企業に、スポンサー契約のお願いをして回っている状況です。営業活動を行なっている中でも、皆さまの日頃の消費活動においても、他ブランドよりもエスパルスを応援されるスポンサーの商品をお買い上げ頂いているという声が多数あります。普段試合のない中でも、皆様の支えがあってスポンサー、営業活動が出来るのだと感謝しております。

その他、テレビ中継の窓口も行なっており、3月17日のホーム開幕から5月26日の横浜Fマリノス戦まで、県内のローカル放送で4社ほど、生中継を行なわせて頂くことになっています。スポンサーの中にもテレビ局があり、もっともっとエスパルスのファンを掘り起こしたいということで、生中継にご協力頂いています。

最後にサッカーを通じて地域貢献活動ということで、サポーターのみなさまとスポンサーの協力のもと、ゴール数と入場者数によるエスパルス福祉基金を2009年から始めさせて頂いております。今年も継続させて頂くのですが、先般2月26日のプレシーズンマッチの時に、昨年の224万円ほどを皆様のご協力で集められた基金の一部を、静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会に寄付させて頂きました。今後も福祉施設に寄付させて頂き、ホームページ等で皆さまにご報告出来ればと思っておりますので、宜しく願いいたします。

。

運営担当 森谷：

運営担当の役割としましては、日本サッカー協会やJリーグとクラブとの間におけるオペレーションですが、Jリーグ開催にあたり、日程作成や規約規程の策定に携わり、試合を実施することを業務の根幹としております。特にホームゲームにおいては、これまでも様々なイベントを行なっており、お子様からお年寄りの方まで、楽しんでいただけるようなものを実施してきてはおりますが、今シーズンも、安心安全なスタジアムづくりを大原則とし、色々なイベントや演出により、皆さまに感動や興奮を与えられるよう取り組んでいきたいと思っております。

また、報道等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、クラブライセンス制度というものがスタートし、その担当も行なっています。今シーズンから審査となり、来シーズンからの運用となりますが、クラブの様々な状況が審査され、いわゆるクラブの格付けが行なわれます。そしてこの審査結果によって、ACL出場できる基準、J1の基準、J2の基準、さらに基準を満たすことが出来なければJリーグに加盟できないという非常に厳しいハードルが設けられます。特にクラブの経営状況やホームスタジアムの施設面は、現実的に厳しい基準となっています。運営の立場からすると、特にスタジアム施設面の改善の必要性は充分感じております。

今回のクラブライセンス制度の有無にかかわらず、我々はこれまで、何度もスタジアム所有者である静岡市に対して、来場者の安全性、快適性に対する改善要望を提出してきました。つい先日、社長の竹内とともに田辺静岡市長に面会し、直接、協力要請を行ないました。静岡市も限られた予算の中、出来る限りの協力はいただいておりますが、このライセンス制度の策定によって、基準が細微に渡って設けられているため、我々も今後継続して協力要請していきます。皆さまにはご不便をお掛けしますが、皆さまのご協力を改めてお願いいたします。

広報担当 杉田：

広報室は、選手のマスコミ対応、テレビ出演や、雑誌・新聞等々の取材の窓口、自社媒体（イヤーズブック、エスパルスニュース、マッチデープログラム、ポスター、DVD、WEBサイト、携帯サイト、スマートフォン、オレンジTVの運営、企画等をやらせていただ

いております。

20周年ということで、一部始まっている企画もございますが、これから20周年企画ということで各自社媒体でも企画が始まってまいります。その中でも、20周年というフックを利用して、FACEBOOKのサイトを近々立ち上げようとただ今準備中でございます。広報という立場で、情報の発信、ブランドイメージアップを図っていきます。今夜は宜しくお願い致します。

ホームタウン担当 林：

ホームタウン推進活動としましては、地域の方々と一緒に街づくり通して、エスパルスというクラブをより身近に感じ、地域の皆様と一緒に絆を作り上げられるように人づくり、まちづくり、ファンづくりに努めております。自治体を始め、自治会、商店街、商工会議所、青年会議所等県内各種団体を通して、県内地域活性化のための取り組みや、地域のコミュニティの推進事業として地域イベントに参加しております。ホームゲームでは地域交流応援シートを企画し、活発に交流事業を行なっています。昨今、地域のお祭りやイベントに、選手やオレンジウェーブ、バルちゃんの参加しているのもその一例であります。クラブと地域の和が広がり、以前にもまして、地域イベントへの参加要請がございます。また、スポーツ推進活動の一環として、小中学生の招待事業、小学校訪問、ドリーム教室、プロスタッフによる夢教室や、職業講和を実施、青少年の健全育成に取り組んでおります。エスパルスは今シーズン、クラブ設立20周年を迎えます。3つある、球団理念に3つとも「地域」が入っており、「地域のシンボル」「地域スポーツ文化」「地域の誇り」さらなる地域浸透を見据え、より一層のホームタウン活動を推進し、地域に認められる、愛されるクラブを目指して邁進して参りたいと思います。今後とも皆さまのご支援ご声援を宜しくお願いします。

強化担当 原：

この地域に来て一番感じたのは、皆さま方の応援のすごさ、雨の時も寒い時、暑い時もチームの状況の悪い時、良い時も含めて、本当に素晴らしい応援をいただき、一番やりがいのあるクラブということと共に責任を感じております。昨年のオランダ遠征、今年の香港遠征でもサポーターの方大勢に来ていただいて、後は我々がやるだけ、多くの応援を背に、世界、アジアを舞台に試合をできるようにやるのが仕事であります。選手も幸せだと思います。

私の仕事は、選手獲得、契約もありますが、それ以外にここにいらっしゃる皆さんと、選手がより戦いやすい環境を作るのも重要な仕事の一つであります。選手の契約、獲得が大部分ではありますが、それ以外にも仕事がございます。将来へ向けての環境整備にも取り組んでいる所存でございます。しかし、完全ではないので、一緒に戦うように皆様にご意見いただいて、世界を舞台に戦えるように時間が許す限りご意見いただいて、監督、選手にもフィードバックしていきますので、忌憚のない意見を宜しくお願いいたします。

営業本部 森田：

お陰さまをもちまして、今年7月4日にクラブ創設満20年を迎えることとなります。今シーズンの17節7月7日川崎戦を20周年記念マッチと題し、皆さまとともに20年という喜びを分かち合いたいと思っております。今後、様々な事業を展開して参りますので、引続き宜しくお願いいたします。

《質疑応答》

サポーターA：

ユースチームの環境の改善、および強化について質問をさせていただきます。

ユースチームは昨年良い成績で、これからも活躍が期待される中、選手と現場は頑張っていますが、環境面やハードウェアの面で他のクラブに対して追い付いていないと思います。京都であれば大学と提携、広島は高校と隣接した環境、ガンバは寮費、学費の負担で親御さんに負担をかけないようにしていると人づてに聞いてます。そういった点で、エスパ

ルスが追い付いていないかなと感じます。スカウトの活動に関しても、不足していると感じます。今後ユースチームの環境に関して、どのような改善や取り組みをしていく予定なのかをお教え下さい。

竹内：

ユースチームの環境についてということで、私もアウェイに行った際は、なるべく色々なクラブの環境を見るようにしていますが、我々が一昨年に聖一色寮を作りました。この寮は環境としては、トップの選手も独身選手が住んでいますが、非常に良い寮だと思います。今年、三保のグラウンドも人工芝の張替を行なっております。クラブハウスも、震災を考慮し、三保の地形から非難もできるクラブハウスということで、構造的にもしっかりとした、3階建てのクラブハウスを4月20日に完成予定です。スカウト活動については、おっしゃる通りだと思います。細かいことは個人の話になるのでお話しできません。今のスタッフではそこまで手が回らない現状ということで、育成部長からもユースに入る前、ジュニアユースに入る前の段階から、全国の優秀な選手をスカウトする仕組み、具体的には、ジュニアユース年代を見る人間が欲しいという声が出ています。今は、トップにスカウトが3名おりますが、その3名が調整してそういった面の強化が出来ればと思っております。しかしながら、将来的には専門に見られるような専属のスカウトを置く必要があると認識しております。

サポーターA：

ユースの親御さんがこのチームに選手を預ければ大丈夫と思える環境づくりを是非ともよろしく願います。

サポーターB：

先程、森谷さんから静岡市役所、田辺市長にスタジアムの改善要望を出しているという話がありましたが、僕たちサポーターからも個人的に、田辺市長へスタジアムの改善を要請して、回答を待っている状況です。僕らもアウェイに行ったときに、色々なスタジアムを見ていますが、日本平も20年前は素晴らしいスタジアムでした。しかし、階段が滑るといった問題もありますし、今時屋根がないスタジアムというのが、どうかなと思っています。雨が降れば人が来なくなってしまうと思います。一番高い席に屋根がなく、バックスタンドにしか屋根がありません。クラブ側からは安全面で、どのような改善を市長に話しているのでしょうか？

ガンバ大阪では、クラブと市が打診して、サポーターが署名を集めて、一緒になって大阪府に話をして新スタジアム建設の動きが出ていますが、僕らも例えば署名を集めたとしても、球団が重い腰を上げてもらわなければならないので、アウトソーシングスタジアムをどう改善していきたいのか、たとえばスタジアムを増設するのか、全席に屋根を付けるのか、考えをお聞きしたいです。

竹内社長：

4年前に、5000席増設、屋根を付ける要望を具体的に絵に描いて静岡市に提出しています。何十億円か掛かるのですが、要望を出しています。クラブライセンス制度の話もありましたが、細かくトイレの数や授乳室が必要であるとか、屋根付きの練習場が必要であるとか項目があるのですが、そういった細かい部分を一つ一つ改善していくことに関しては今シーズンも引続き行なっていきます。我々としては最低25,000人収容、メインスタンド全体に屋根を付けるというような、地形の専門家に見てもらった上で、実現可能な絵を出しております。それは今後も要望していくつもりです。もう一つ、まだ具体的には動いておりませんが、川勝県知事、田辺市長から草薙に新スタジアムをという発言が出てますが、皆様の日本平への思い入れというのは理解しておりますので、そういった動きが出た際は、皆様としっかり話し合いを進めていくつもりでございます。

屋根は座席の3分の1以上を覆わなければならないというライセンス制度になっています。静岡市にもこの点については説明しております。今シーズンということではなく、猶予期間があるが、現在約27%の座席しか屋根におおわれていないので、3分の1以上の屋根を付

けなければ、その項目をクリア出来なくなってしまう。そういった部分も、静岡市に行なって頂けるように動いて参りますが、多額のお金がかかる話であり、どういうスケジュールで進めるのか、また草薙の新スタジアムの話も含めて話し合いを行なっていきます。

サポーターB：

絵に描いた餅では終わって欲しくありません。雨の日は、僕らは来るけど、他の人たちは雨だから来ない人が多いです。雨の日は明らかに観客動員数が減っています。屋根が付いていたら、もっと来るはず。打診するのではなく、来シーズンから着工するくらいに動いていただきたいです。球団が動いているのかどうか分からない部分もあるので、サポーターの署名が必要であれば言って頂きたいです。

竹内：

アウスタ日本平の大幅な改造の他、草薙の新スタジアム建設の話がありますが、いずれにしても、サポーターの皆様のご協力が必要になってくると考えております。遠くはないと考えておりますが、その際はお願いをするつもりでございます。

サポーターC：

先日、今年の入場待ちのルールに関しての情報が出され、0時に集まって1シート10名というルールが出ていました。私は静岡市に住んでおらず、周りの仲間も東京や横浜から新幹線を使って試合に来ているのですが、シート貼りの件もあってか、指定席以外の良い席が、ほぼ指定席になっています。始発で行ったとして、既に席が取られていて、良い席が取れない状況です。そして、その席は試合直前まで空いています。試合になっても空いていることもあります。地元密着もいいのですが、他の地域から応援にきている人達は不満が溜まっています。川崎フロンターレでは席詰め隊という活動があります。1人当たり何人までという人数を確認する、シーズンシートは優先的に入場する、目立つ席取りはやめるよう人を立てる等の対応していただきたいが、問題意識があるかどうかの確認と改善策をお考えかどうかをお聞かせください。

森谷：

席取りについては、マナー遵守の啓蒙を呼び掛けております。過剰な席取りは当然のことながら、決して良いわけではなく、我々も運営スタッフや警備員が個別にお声をかけて注意を促しております。ご指摘通り、徹底できていないところもありますが、決して見過ごすつもりはありません。運営スタッフの配置も含めて、お客様にご迷惑をおかけしないよう努力していきます。同様なことは、以前からご指摘いただいていることでもあり、我々としましても、今後も継続して過剰な席取りへの対応は行なっていきたいと思っております。

サポーターC：

アウスタの座席が他のスタジアムより狭いということもあります。実際、荷物を座席に置きたくなる気持ちもわかりますが、スタッフの方が注意しているのを見たことがありません。席詰め運動は行なっていますか？

森谷：

川崎フロンターレさんのように、運動ということではやっておりません。しかし、来場者が多い試合に関しては、スタッフも増員して開場後に席を詰めるよう告知や、マナーアップを促す告知をしております。一昨年より「マナーアップ宣言」と題し、まずはお客様自身にマナーアップを呼び掛け啓蒙する活動を強化しています。しかしながら、ご指摘の通り、行きとどいていないところも多々あります。今後も改善に向けて、引き続き努力していきます。また、恐縮ではございますが、もし会場でそういったことを目にされましたら、お近くのスタッフにお声掛けくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

サポーターC :

入場順番待ちの1シートに対し、10名というのが多いと思います。1人当たりの席取り人数を明確にいただければと思います。マナーと一口に行っても皆それぞれだと思いますので、目安をしっかりと出していただければと思います。宜しくお願いします。

サポーターD :

エスパルスの後援会の募集をされておりますが、特典は多いが、費用が高く感じます。年会費8,000円で入会金1,000円の合計9,000円かかってしまいます。ジュビロ磐田の場合は、入会金1,000円で年会費3,000円、他のクラブは大体3,000~5,000円です。ガンバでは、ライト会員として、年会費1,500円の後援会もあります。僕としては、特典は少なくてもいいので、年会費3,000~4,000円のファンクラブがあれば入りたいなと思っています。この様なご検討は頂けないでしょうか？

森田 :

後援会につきましては、様々なご意見をいただいております。現状、年会費8,000円ですが、8,000円以上の還元をさせていただいております。この件については、後援会案件となりますので、後援会事務局に報告させていただき、後援会の役員で議論していただきたいと思っています。

サポーターD :

もう一つグッズに関してですが、県内に幅広くオフィシャルショップがあるが、三保の練習場とアウスタの近くにはちゃんとしたお店としてのショップがありません。ジュビロ磐田はスタジアム前にあり、非常に便利だと感じます。三保の練習場に来て、選手にサインをもらう時に、グッズを買おうと思っても、ドリームハウス清水店まで行かなければなりません。土日だけでも三保に店舗があればいいと思っているのですが、できないでしょうか？

森田 :

Jリーグの中で、エスパルスは、オフィシャルショップ数が一番多いチームです。その分、店舗数が多いと、運営コストもかかり、費用対効果を考えると、新たな出店は慎重にならざるをえません。一方、オフィシャルショップは、ファンの皆様のネットワークの拡大に向け、非常にいい役割であるのも事実です。三保練習場の店舗については、常設は厳しいですが、ご来場者の多い日につきましては、出店という形で、今後、検討させていただければと思います。

サポーターE :

Bさんに付随した意見ですが、早川前社長の時代から、5,000席増席の要望を静岡市に出しているということは聞いています。4年前から出していることに対して、静岡市はどういう動きをしているのかという問いかけを、アウスタ日本平の指定管理者である静岡市振興公社に聞いた際、静岡市からは何の動きもないし、クラブの方からも動きが伝わってこないと言っていました。放置状況に置かれているのが事実だと思います。いかに行政を動かしていくかが大事だと思います。

先だって、豊田スタジアムに行ってきましたが、天気が悪く、メインスタンドの屋根を閉めていた為、雨の心配がありませんでした。メインスタンドの座席の下から暖かい蒸気が上がって、非常に暖かかったです。さらに、一番良い席については、タオルケットと座布団のプレゼントもありました。

チームがいくら言っても、はっきり言って行政は動きません。どうやって行政を動かすかと言ったら、署名だと思います。この4年間、署名を集めることはありませんでした。クラブがお願いをして、サポーターが署名をただけでもだめだと思います。商工会議所、行政、ボランティア団体、サポーター団体、協会等すべてまとめて、マスコミも入れて署名活動をして、どれかが突出するのではなく、サポーターもチームも選手も、みんなが動

けば、必ず行政は動くと思います。

竹内：

アドバイスありがとうございます。先程いただいた、スタジアム改修の話に関して、署名活動等具体的な動きを必要とするのは十分理解しております。そういうことを今後お願いしていくことになると思っております。目に見える動きをいろいろなところで賛同を得ながら、一つの大きな動きにしなければと感じております。

サポーターF：

入場について、後援会やシーズンシート保有者の先行入場が他クラブにはあるが、うちにはありません。シーズンシートの特典としては、コストもかからずに出来るので、良いと思うのですが、出来ない理由があるのですしたらお教えいただきたいと思います。シート張りの0時という時間設定は妥当なのでしょうか。遠方から来る方は一旦0時に来て、開場30分前に再度来なければならないという負担があります。たとえば前日の20時や当日の朝7時ということはいかがでしょうか。

森谷：

まず、先行入場については、以前よりそういったお声をいただいております。これに対しては我々クラブとして何らかの考えがあって行なわないということではありません。後援会員やシーズンシートご購入の方のメリットの一つとして、先行入場というものが喜ばれるのであれば行なっても良いと思います。しかしながら、現状として出来ない理由は、単純にハード面の問題です。先行入場を実施する場合、先行入場可能の方々の待機レーン、それ以外の方々の待機レーンの待機列を作る必要がありますが、スタジアム廻りのスペース的に作ることができないという理由です。今後、先程からスタジアム改善という話が出ておりますが、周辺のインフラも含めて改善出来れば、すぐにでも先行入場を実施することに異存はありません。

シート貼り開始の時間についてですが、我々はスタジアムに対して試合当日分のみ使用料を支払って借用しております。午前0時以前に実施する場合、前日の使用料をさらに支払なければならなくなってしまいます。午前0時というのは、試合当日という解釈をしており、スタジアム管理者からのご協力もいただいております。また、当日の朝7時というご提案ですが、我々も当日から並んで頂ければ負担も少なくて良いことだと思います。しかしシート貼り可能開始時間にスタジアムへの来場が集中することが考えられ、その時間はすでに近隣の方々が動き出している時間であり、違法駐車への懸念もあります。

そもそも入場待ちルールを設けるにあたっては、近隣の方々から騒音や違法駐車之苦情が警察に多く寄せられたことをきっかけとしております。以降、毎年試行錯誤しておりますが、現状においてはベストであると考えています。近隣の方々へのご迷惑を回避することが最優先課題としている中、来場される皆様の負担も出来る限り軽減させたいと熟慮した結果です。しかし、完璧であるとは思っておりません。もし、今後良い方法が見つかれば、変更していくつもりです。皆さまも、もし良いアイデアがあれば、ご提案ください。

サポーターH：

西サイドスタンドの階段踊り場に白いシートが貼っていますが、外すことはできないでしょうか。付けた理由がよくわかりませんが、煙草の灰が落ちてしまうからということを知ったことがあるが、喫煙所を変更すれば良いわけで、あそこを覆う必要はないと思います。あれがあることで、チームとの一体感と言いますか、選手たちと物理的な距離があって、違和感があります。アウェーチームへのプレッシャーもかけづらいです。外せるのであれば外してほしいと思います。

森谷：

幕を付けている理由ですが、煙草の為ではありません。ホーム側スタンドの下にチームバスの駐車エリアとなっているという特殊な構造はアウスタ日本平が唯一ですが、それにより人が滞留することの危険性や物の落下による怪我の発生の危険性を警察から指摘されて

設置しています。選手以外にも中継局スタッフや運営スタッフが多く往来しており、その安全性の確保が理由です。また、試合規程上からも出来る限り、チームとメディア、観客の導線を隔離しなければなりません。

サポーターH：

見えなくする必要はありますか。透明な幕できないでしょうか。出来れば選手が見えるようにしていただきたいです。

森谷：

設置した時はコスト的な面で白い幕になりました。下が見えることによる滞留への懸念はありますが、作りかえる際には検討します。

サポーターI：

会社で広報をやっておりますので、広報について質問させていただきます。ホームページですが、間違いが非常に多かったです。特に酷かった3点は、2011年9月エコパスタジアムの開催についてホーム・アウェイの日程・節が逆でした。また2011シーズンの選手プロフィールの背番号名前が違っていました。そして、天皇杯の携帯速報永井選手の名前を間違えていました。エスパルスの方がやっているのかどうか教えてください。もうひとつが、沼津にエスパルスの広告がありますが、まだ昨シーズンのものになっていました。

杉田：

ホームページの記載については、ご指摘いただいた通りで、お恥ずかしいところであり、お詫び申し上げるしかありません。東京のインターネットと運営会社と一緒にやらせてもらっていますが、手作業のため、ミスが出てしまいお詫びするしかありません。お互いで二重チェックをしていますが、単純な人的ミスということでもあります。永井選手の名前については、委託するライターが速報で打っているため、単語登録に他のチームの選手名も登録しており、速さを重んじるが故、名前ミスはあってはいけないのですが、その他にもミスが多々出てしまっております。「速報」とうたっているものですから、気持ちが良くないということは理解しておりますが、速さを重んじている中で生じてしまっているということでご理解いただければと思います。

竹内：

ご指摘いただいたことはもっともなことでございます。今、説明がありましたが、事の本質はこちらがチェック出来ていないということです。ホームページに出ているものの間違えに気づき、直すということは、エスパルスの仕事なので、十分注視していきます。

サポーターI：

今後、もし見つけた際は、お電話させていただきます。エスパルスのホームページが間違えだらけでは悔しいですし、ファンとして誇りをもちたいので是非、今後間違えが出ないようにお願いします。フォトモザイクに関しても、間違えがあったので、直して告知していただければと思います。意見を交わして、より良く出来ればと思いますので、宜しくお願いします。

サポーターJ：

ミーティングは年2回くらい開催するという話でしたが、是非、年2回やって頂きたいと思えます。

また、試合後に選手がピッチを1周回って挨拶をしていますが、選手がスタンドを見ていないと感じています。子どもからもそういった意見も出ています。小野選手は見ていますが、選手同士で話をしながら回っている選手が多いように見えます。話をしながら回るのはなく、スタンドを見て回るよう教育をして欲しいと思えます。以前、バスのスモークフィルムを指摘した件で、選手のピッチ内にいる時とそれ以外で区切りをつけたいという理由は理解していますが、是非ピッチ内のところではお願いしたいと思えます。

竹内：

選手の教育についてはその通りだと思います。見ている人は見ていると思いますので、しっかり教育していきます。

サポーターK：

本日は遠くから来ましたが、それは苦ではありません。エスパルスが好きですから。ユングベリは、天皇杯の頃から怪我がちで、年が明けて背番号が決まってからの退団はショックでした。今、枝村選手が頑張っています。そういった頑張っている選手のモチベーションを落とすことは控えてほしいです。また、ボスナー選手の退団は大きいと思っています。後2、3年で全国区になれたのではないかと思います。あれだけのフリーキックを持っている選手はいないので、それでいろいろと展開できたのではないかなと考えております。引き留められなかった理由を教えてくださいませんか。

竹内：

今年の陣容を考えたときに、強化費等も考慮し、今の状態の方が良いということになり、今の陣容を選んだということです。

サポーターL：

Kさんと同じく、毎試合遠くから来ていますが、自分で好きでやっているもので、遠いということは気になりません。鹿児島のプレシーズンで、最後にサポーターが集まっていた場所へ挨拶に来なかったのが、来てもらえたら良かったなと思っています。我々サポーターと他の席にいるお客さんは同じであり、差をつける必要はないと思います、サポーターとしては寂しかったです。

別の質問として、アウスタ日本平のアウェイ側の1F席もホームとアウェイを分けることを検討してもらいたいです。

竹内：

選手挨拶に関しては、先程と同じです。付け加えると、去年震災があり、普通にサッカーが出来ることに、感謝の気持ちを感じて欲しいと思っています。応援して頂いた皆さまに感謝の気持ちというのは選手たちは持っているとは思いますが、そういった人間に選手たちになってもらいたいと思います。選手たちに「このようにやれ」と言えば、その場ではやるかもしれないが、自然とそういった気持ちを持った選手、そういったことができる選手になるよう教育していきます。

大瀧氏：

以上で終了いたします。今日はこの様な機会を作ってください、また皆様もお忙しい中、集まって頂きありがとうございました。チームと一緒に頑張って、今年も今まで以上に後押ししたいと思います。皆さん力を貸してください。今日はありがとうございました。

以上